

問題解決プロセスにおける可視化の有用性と そこから見える成功要因 その2： 建築における問題解決プロセスの可視化とその有用性

正会員 ○吉井 麻裕*

建築行為	プロセス	可視化
比喩表現	からまり	問題解決

1. 目的

人口減少・空き家増加といった、縮小時代を象徴とする言葉をよく耳にするようになった昨今、暮らしや建築に対する考え方に変化が生まれている。

しかし、これらの変化は新たに小規模な傾向に過ぎず「建築する」ことにモノとしての価値のみ抱き、コトとしての価値に気づいている者は多くない。

「建築する」ことの持つ、コトを生み出す力は、社会の様々な問題を、多種多様な分野を取りまとめながら指針を打ち出し（問題提起）、解決（問題解決）に導く一つの手段に成り得ると考えられる。

本研究では、日本各地で取り組まれている様々なプロジェクトの可視化を目的とする。また、可視化をすることによって見えてくる問題点や反省点、立役者となった設計思考保持者等を発見し、体制や環境等の改善方法を導き出すといった、有用性についても言及する。

また、それらを一般の人々にも共有できるツールとして可視化することを目的とする。

2. 研究方法

対象プロジェクトに関する情報をインターネット及び書籍を使用し収集する。収集した情報を元にベースストーリーにまとめ、そこから主観に基づいた比喩表現を用いて2種類の可視化を試みる。

可視化①：からまり表現によるプロセスの構造化（表1）

可視化②：植物による比喩表現への置き換え（表1）

可視化①-②：からまり表現の分類（表2）

可視化②-②：植物比喩表現の抽象表現（表3）

可視化②-③：抽象表現の分類（図1）

これらの可視化と可視化により見出された疑問・思考・議論から、プロジェクトへの再評価・課題の抽出を行う。

3. 比喩表現

3.1 からまり表現

その場所が持つ問題を“からまり”と表現し、プロジェクトプロセスを①からまりを見つける（問題の発見）②からまりをつかむ（問題解決の必要性に直面する）③からまりをほぐす（問題解決のための準備にとりかかる）④あみなおす（問題解決に踏み出す）の4段階に分類し置き換える。置き換え方は①～④それぞれ、事象に対して共通の抽出方法で行う。からまり表現では全体の流れを俯瞰的に分析することができる。

3.2 植物成長表現

ベースストーリーを、比喩（植物の成長）を用いたストーリーに置き換える。事象の置き換え方は、共通の抽出方法で行う。

植物の成長プロセスはすべての生き物に共通し、かつ誰もがそのプロセスを理解し易いものであるという前提のもと、植物の成長として比喩することは、多義的かつ複合的な「建築する」ことを考える上で、唯一それらを網羅することが可能な複雑性を持っていると考える。そのため植物比喩表現は、より詳細にプロジェクトを見ていく際に機能してくる。

4. 対象プロジェクトの可視化

収集した情報やプロジェクトの概要を元にベースストーリーにまとめ、「からまり表現」「植物成長表現」への変換（表1～4）を対象プロジェクト全8例で行い、各プロジェクト毎に変換結果と仮説を立てた。

5. 考察

からまりをほぐすに該当する行為は、一般的に敬遠されがちだが、目的達成の為にはかかせない要素であり、設計思考保持者はこの段階に注力していると考えられる。またそのことが、からまりをあむの行為に繋がり、プロジェクトの継続に大きく関わっていると考えられる。植物の自律的な力を引き出すようにプロジェクトに関わることでそのプロジェクトは目的を達成し、かつ継続し得ると考えられ、その育成のプロとして設計思考保持者が挙げられる。また、同時に育成のプロを育てること自体が、プロジェクトの半永久的な継続に寄与すると考えられる。また、「比喩表現から得られた抽象表現」から得られた仮説より2種の系統と1種の型の組み合わせで計4種類にプロジェクトを分類することができた。（図1）

「からまり表現」「植物比喩表現」の2種の可視化と、そこから「植物比喩表現の抽象表現」「からまりの分類」という新たな2種の可視化を導き出すことができた。これらは、プロジェクトの全体像から詳細まで、利用者の必要段階に応じて使い分けが可能であり、分析・実用共に、ツールとしての機能があると考えられる。

6. 総括

本研究で行った可視化では、建築リテラシーの差に関係なく、各々の頭の中で想像でき、プロジェクトの事象に対して意見を出すことができる。そのため、両者の共通言語としての有用性があると考えられる。これまで専門家に委ねられていた良質な建築行為が一般化され、様々な人々に周知することが可能となるため、問題点・反省点の改善方法や、必要な人材への理解、支援のための協力体制の整備につながると考えられる。また、設計思考保持者はコトを生み出すプロジェクトにおいて必要な人材であり、この人材の育成と能力を発揮できる環境等の整備は、これからの成熟社会を歩む私たちにとって重要課題である。

対象プロジェクト 【事例6】もみじ通り（栃木県宇都宮市）

表 1		表 2		表 3	表 4
からまり	ベースストーリー	比喻（植物）を用いたストーリー	からまりの分類	抽象表現	誘発思考
 ①からまりを見つかる	ある街のにぎわいをなくした通りに地元出身の建築家が事務所を構えた。 静かな通りの雰囲気魅了されて来たものの近所に仲間やお店が欲しいと思うようになる。	ある街の静かなシェア畑に植物の専門家がやってきた。 彼はシェア畑の一区画を借り大事に持ってきた種を育て始めるが余ってしまい育ててくれる人を探す事に。		 	■なんで種は余ったの？
 ②からまりをつかむ	そしてそんな気持ちや思い描く状況を実際に周りの人々に言っていて回っていると出店を希望する人がいることがわかった。	そして種が余っている事を大声で叫びながら近所を歩いていると育成希望者が現れた。	 ②建築家が見つかる		■無人直売みたいな方法でも良かったのでは？
 ③からまりをほぐす	建築家は希望者と実際に会って話を聞く事に。 希望者のバックグラウンドややりたい事業についてヒアリングし事業が成り立つと判断できた人に物件の紹介をすることにした。 通りには多数の空物件があったが出店者それぞれにあった物件をプロの視点で選定し提案。 そしてその物件の所有者の元へ出店者と共に訪れ仲介人として話合いに参加し物件を貸してもらおうということをし繰り返した。	専門家は希望者と実際に会って話を聞く事に。 育成希望者のこの種に対する思いや育て方のビジョンを何度も話し合い信頼できると判断した人に種を譲る事を決めた。 シェア畑にはたくさんの使われていない空区画があったが育成者それぞれにあった場所を専門家の視点で選定し提案。 そしてその区画の所有者の元へ育成者と共に訪れ仲介人として話合いに参加し区画を貸してもらおうということをし繰り返した。	 ③丁寧にほぐす	   	■その差はなに？ ■噂はどうやって広がったのか？ ●芽がでるかも ●芽がでないかも
 ④あみなおす	出店者は続々と集まり6年後には17の店舗が通りに出店し中には県内随一の人気店にまでなった店もあった。 やがてこの通りと近隣の通りが共同してイベントを開催するなどにぎわいは通りをはみ出していた。 自分自身が生活しやすい通りにしたいという思いから作り上げたこの風景と賛同してくれた人々に感動しこの通りをもっと素敵な通りにしたいと思い始めた。 そこで彼はもっと面白い人たちがこの通りで生活していけるように円滑な住宅流通をしたいとたくらみ始める。 すると近隣の大学や銀行・市にまで問題意識が共有され4者による取り組みが始まり連携組織が設立された。 今新たににぎわいがこの通りをこえ近隣の街中で生まれようとしている。	種の引き取り手は次々に決まり6年後には17の区画がその種の芽を出し中には大輪の花を立派に咲かせている場所もあった。 やがて咲いた花は新たな種をつくりシェア畑の外にまでその実をはじけさせていた。 専門家は一つの種から始まったこの風景と賛同してくれた人々に感動しこの場所をもっと素敵なお店にしたいと思い始めた。 そこで彼は新たな種を生み出しその種をもっとたくさんの人に育てて欲しいとたくらみ始める。 その噂を聞きつけた近隣の有力者や大きな組織が彼のこれまでの取り組みを評価し協力してくれることになった。 今新たな種がシェア畑をこえ近隣の街中で芽を出そうとしている。	 ④本数を増やしながらかむ	     	図 1 抽象表現の分類  TREE 系  SEED 系  TREE 系 Forest 型  SEED 系 Forest 型